

鎌ヶ谷市施策評価表(事後)

施策の名称	212循環型社会の構築		
施策のねらい (めざす姿)	市民の資源の保全に関する意識が高まり、市民・事業者・行政が協働して、ごみ減量化、リサイクルへの積極的な取り組みが進められています。		
基本目標	2「自然と社会が調和する環境共生都市」をめざして	施策担当マネージャー	市民生活部次長
政策	21人と自然にやさしい地域社会をつくります	マネージャー氏名	斉藤 薫

I 改革・改善内容(=施策をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	小型家電の取組みについて、回収拠点やイベント回収の手法等について検証を行う。また、ごみ分別アプリの普及促進を図るため、周知PRを強化する。また、ごみの減量化及び分別の徹底を図るため、出前講座やチラシによる周知活動を継続する。	③改革・改善内容	小型家電の回収について、東京オリンピックのメダルを回収した小型家電から作成するメダルプロジェクトに参加し、回収量の増加を見込んでいる。そのために、広報・ホームページへの掲載を含め、出前講座やチラシによる周知活動を継続する。
②①に基づく取り組み結果	イベント回収の事前に周知を実施すると、イベント回収後の拠点回収においても回収量が増加することが分かった。また、ごみ分別アプリのダウンロード数も平成28年度において約2,000件となった。		

II 施策の目的・概要

①目的	対象	市民及び事業者	意図(対象をどうするのか)	市民、事業者、行政が連携し資源循環型社会の確立に向けて取り組む。
②施策の概要	資源循環型社会の構築を目指すため、ごみの減量化(リデュース)、再利用(リユース)、リサイクル(再資源化)の3Rを促進する。			
③環境分析(状況変化や今後の見込み・市民意向など)	資源化率の向上には分別の徹底が不可欠であり、ごみの分別に対する更なる意識の向上が求められている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27～28年度の施策の成果	プラスチック製容器包装類については、26年度にAランク復帰後、2年間Aランクを維持している。							
②施策成果指標	指標名称			単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	目標値(32年度)
	i	資源化率	%	23.3	22.9	22.1	上昇	
	ii	最終処分率	%	8.3	8.2	8.1	減少	
	iii							
③基本事業成果指標	i	市民1人1日当たりごみ排出量	g	618.4	616.0	604.6	減少	
	ii	リサイクル情報の掲載件数	件	14	15	10	増加	
	iii	資源化率	%	23.3	22.9	22.1	上昇	
	iv	最終処分量	t	2,638	2,609	2,536	減少	
	v							
	vi							
	vii							
	viii							
	ix							
④施策の事業費	平成27年度決算	平成28年度決算	市民一人あたり事業費(28年度決算)	平成29年度予算				
事業費(千円)	1,325,464	1,336,955	(単位:円)	12,246 円	1,379,574			

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	クリーンセンターしらさぎへの搬入量及び最終処分量が減少しているが、資源化率についても減少しており、ごみ分別に対する更なる意識の向上が必要である。		
②総合評価	2概ね達成	③総合評価の理由	資源化率は微減となったが、最終処分率や市民1人1日当たりのごみ排出量は共に減少傾向を示している。

V 今後の方向性

①成果の方向性	↑ 向上	②コストの方向性	↑ 増加
③特に重点化する事務事業	ごみ減量業務に要する経費		
④上記方向性の説明	ごみの減量化を図るために広報・ごみアプリを通して市民等への周知を図り、徹底したごみの分別と資源化の実現を目指す。また今後はしらさぎの大規模修繕、周辺整備に取り組んでいく必要がある。		